

# 双葉の神社再建へ

## 大阪の会社 伝統工法採用

福 島

東日本大震災で倒壊した福島県双葉町の両竹鎮座諏訪神社を無償再建するプロジェクトの記者発表会が7日、東京・赤坂であった。費用を負担する住宅販売会社「創建」（大阪市）は地域再生に役立ててもらおうことを期待している。

新たな神社は木造平屋の38平方メートルで6月に建築を始め、10月完成の予定。宮大工技術を持つ創建のグループ会社が担う。木材の特長を生かした伝統工法を採用することで、高い耐震性を実現できるといふ。

創建が神社を無償で再建するのは、2016年の熊本地震で被災した白山姫神社（熊本県西原村）に次いで2例目。吉村孝文会長は

「神社は地域住民の心のよりどころでコミュニティの中心。日本人にとって必要な場所」と意義を語った。今後も1年に1カ所のペースで被災神社を再建する方



神社再建の記者発表会に参加した創建の吉村会長（左から3人目）、木幡宮司（右端）ら

針を示した。

震災直後、海岸線から約1キロで約25メートルの高台にある両竹鎮座諏訪神社には、50人程度の住民が避難し津波の難を逃れた。木幡輝秋宮司は「現在、いわき市などに避難している氏子はあるがたく感じていふ」と感謝の言葉を述べた。